

ぼくの住む幸崎の海

ぼくの住んでいる幸崎には、昔から「味瀉」と呼ばれる豊かな海が広がっていました。しかし、豊かなはずの幸崎の環境は、川や海が汚れたり、生物が減ってきたりしています。

ぼくたちが4年生の時「畑岡川」でゴミ拾いをしました。すると、小さいカンやビンから大きいパイプのような物までが捨てられていました。これでは、川や海の生物は、住めなくなってしまうます。また、川のごみは、海を通じて他の国にも行ってしまいます。幸崎の汚れは、世界の環境破壊につながるおそれがあります。

5年生の時の水産教室では、幸崎の海砂が減ったことにより、魚たちの住みかの海藻が減ったと知りました。そのために、ここでも生物が減っています。また、河口付近に住んでいる「ハクセンシオマネキ」というカニのサイズが小さくなっていることも知りました。

ぼくたちが出すごみや洗ざいが海を汚し、便利で快適な生活をするためにとつた海砂が魚たちの住みかをうばっています。だからぼくは、自分がしていることは、環境にいいのかを考えながら生活したいと思えます。そしてこれからも美しく豊かな「味瀉」の海を守っていききたいです。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第22回 —

わがふるさと三原

私は、よく三原市のリージョンプラザという施設を利用します。私はこの施設が「これからもありつづけるだろう。今までであつてあたり前だったから。」と思っていました。

しかし、「広報みはら」『特集・公共施設の今後のあり方を検討します。』を読んで「そうだね。今までの当然は、これからは当然ではない時代になつてきているんだね。」の一文が目飛びこんできました。

他にも、読み進めるうちに、今まで知らなかった三原市の公共施設問題がたくさん分かりました。特に、「全国の自治体でも人口の増加に伴う都市化の進展や経済成長に合わせて多くの公共施設が集中的に整備されてきました。」という一文は、私にたくさんの疑問を持たせました。そんなことをしてしまつては、一度にたくさんさんの施設を更新しなくてはいけなくなり、その時のお金はばく大な額になってしまいます。すると市民はたくさん税金をとられ負担がかかります。そこで、私はそんな事にならないように、次のような自主的な活動をしていきたいと思います。

まず、毎年本郷小学校ではクリーン大作戦という活動で近くの公共施設を掃除します。この活動を行えば、施設がきれいになり、利用者も増えて良好な状態が維持できます。

次に、私自身が色々な施設を利用する時、ごみは決められた場所に捨てることや、他の利用者の迷わくにならないように行動したいと思えます。

何より、私はみんなの三原市を守るという意識が大切だと思います。それが、ふるさと三原を担っていく私達の役目です。

